

放射2号線道路計画問題

～地域住民にとって本当に必要な道路なのか？～



品川・生活者ネットワーク

ニュース臨時号



発行日

2023年11月1日

発行

品川・生活者ネットワーク

発行責任者

井上八重子

〒140-0043

品川区二葉 1-10-11

TEL03-5751-7105

FAX03-5751-7106

放射2号線の道路事業は、国の戦後復興計画が基となっています。焼け野原の時に地図上に線が引かれた計画です。70年以上放置されていた計画が2013年に突如再浮上し“地域の防災性の向上を図るために必要”とし、東京都は事業を進めています。70年前とは違い現在は当該計画地域には多くの住民が暮らし、そこには市民生活があります。学校や大学、児童施設も道路図面上にあります。地域への十分な説明も無く、都による用地取得が進められています。

地域住民からは、フェンスに囲まれた用地に心理的不安に駆られる声や、夜間の暗闇に犯罪等を危惧する声が聞かれます。東京都全体をみれば、同様の都市計画道路の見直しや計画廃止となった地域もあります。(第三次・第四次事業化計画) 世界では、地球環境改善のため脱炭素が叫ばれています。さらに日本では、人口減少と、車離れも起きています。

車に乗る人口そのものが減っていく将来に、今さら都市計画道路は必要とは思えません。



2023年8月、東京都にヒアリングを行いました。

いながき孝子品川・生活者ネットワーク前区議は、道路計画に自宅が掛かる当事者です。岩永やす代都議(都議会生活者ネットワーク)、田中さやか前区議、都市計画道路地区の住民と参加しました。

区立学校や、星薬科大学を横断する放射2号線計画

しながわ百景の一つにもなっている星薬科大学の銀杏並木は、放射2号線が通れば景観が様変わりします。

星薬科大学の構内を分断する放射2号線計画。計画路線上には薬科大学に必要な薬草園があります。また、東京都へのヒアリングから隣接する荏原第一中学校や大学に通う学生の通学の安全の担保について検討されていないことが明確になりました。

市民生活を顧みず、街並みやコミュニティを分断する一方的なまちづくり・道路計画は見直すべきです。

